



防災講演会「災害に備え、私たちができること」

令和6年9月8日（日）、弓削地域交流センター（消防2階）において、防災講演会「災害に備え、私たちができること」を行いました。

今回は、各地区の自主防災組織を活かし、「自助」、「共助」による「減災」の考え方を基本として災害に備えるため、各地区役員および防災士を中心に約100名の方に来場いただきました。講師には、日本防災士会愛媛県支部から副支部長の蔭原氏をお迎えするとともに、上島町社会福祉協議会の協力を得て生活支援コーディネータの福田氏を派遣いただきました。災害に対する地域連携活動やボランティア活動と自治会、自主防災会との連携についてお話いただき、来場者には、「災害へ備える行動」を考えていただきました。



（防災士会 蔭原氏）



（上島町社協 福田氏）

秋季全国火災予防運動の実施について

毎年11月9日から15日までの1週間を『秋季全国火災予防週間』と定め、全国で火災への注意が呼びかけられています。

これからの季節は、空気が乾燥して火災の発生しやすい気象状況が続きます。火の取り扱いには十分注意し、火災を起こさないようにしましょう。

また、各保育所、消防団と合同で下記のとおり防火パレードを実施しますので、沿道で園児にご声援をお願いします。

幼年消防クラブ防火パレード日時

生名保育所	令和6年11月11日（月）
場所	保育所から生名港まで
岩城保育所	令和6年11月14日（木）
場所	保育所から岩城港まで
弓削保育所	令和6年11月15日（金）
場所	保育所から佐島港まで

※時間はすべて10時～11時で行います。

令和6年9月出動件数

地区	弓削	生名	岩城	魚島	その他	合計	R6累計
火災	0	0	0	0	0	0	3
救急	23	14	9	0	0	46	345

（令和6年9月30日現在）

【上島町消防署】 ☎ 77-4118
【上島町消防本部消防防災課】 ☎ 77-3166

上島町の誇りとなる消防団員 絶賛募集中！

11月9日は「119番の日」

火災・救急・救助などの緊急時には、119番による通報をお願いします。

○固定電話からの119番通報について

消防署の位置情報システムに通報場所が表示されるため迅速に出動することができます。

○携帯電話からの119番通報について

通報場所によっては、今治市や尾道市の消防署に繋がる場合がありますが、上島町消防署へ転送してもらえますので、電話を切らずにお待ち下さい。

119番通報のポイント

①通報した理由を伝える

「火災」「救急」「救助」いずれかを伝えて下さい

②場所を伝える

消防車両が向かう場所（住所）、目標物、世帯主など

③状況を伝える

「火災」・・・なにが燃えているのか
「救急」「救助」・・・だれがどうなっているのか（体調が悪い人、怪我をした人はだれなのかなど）

④自分の名前と連絡先を伝える

状況などの詳しい内容が必要な場合に、消防署から再度連絡をする時があります

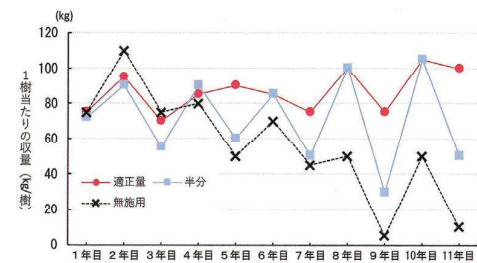
※場所が確認でき次第、消防車両は出動しますので、落ち着いて説明して下さい

(1) カンキツ栽培と施肥

カンキツ栽培では、品種により年間25kg～40kg程度のチッソ成分の肥料を施用しています。毎年肥料をやる理由は、果実や樹の成長に必要な養分を土から収奪し、育った果実は人が収穫します。自然界では果実は地面に落ちて分解され、土中の養分となり再び植物が吸収して育つというサイクル

(2) 晩秋肥の効果

晩秋肥の効果は、①果実の成り疲れによる樹生回復、②耐寒性の増強、③根に多く貯蔵され、翌春の新梢発育や開花に利用する貯蔵用分として蓄えられます（図2参照）。樹勢回復と翌春の新芽の発育に利用される重要な施肥といえます。



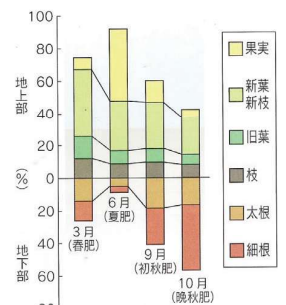
▲ 図1 温州みかんに対する年間施肥量と収量の推移

が成り立ちますが、栽培果樹ではその養分サイクル成り立たないで収穫した果実の養分を肥料として補う必要があります。ただし、施肥をやめたからすぐに実が成らなくなることはありませんが、樹の生育や収穫量が年々減っていきます（図1参照）。

(3) 秋肥施用のポイント

晩秋の頃は冬に向かって寒くなる季節で、カンキツ類にとっては根の吸水能力が低下する時期となります。また、11月は、まだ果実の成っている品種が多く、施肥が早すぎると着色の遅れ（緑色が残る）や浮皮（皮の肥大が進む）など果実品質に悪影響を及ぼす場合があります。根が活発に吸収するには地温が12℃以上必要で、瀬戸内地域では12月頃から地温が12℃を下回り始めます。また、有機配合肥料はすぐに吸収されないもので、成分が溶出して吸収できるには1か月程度必要なので11月上旬～中旬頃に晩秋肥を施用するとよいでしょう。収穫を終わらせてからと後回しにすると気温が下がり肥料の働きが半減するので収穫の合間を見て適期施肥に努めてください。

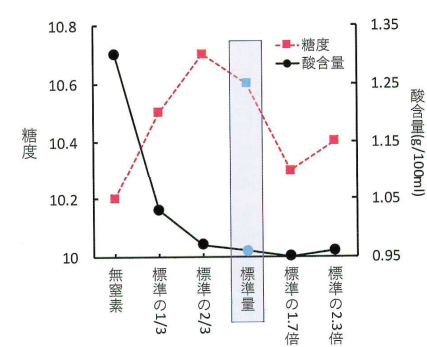
また、今年着果が少なかった樹



▲ 図2 温州みかんによる年々窒素肥料の移行先

(4) 年間施肥量と果実品質

肥料はカンキツ類の生育への影響はすぐには現れません。むしろ、肥料のやりすぎの反応が早く現れますが、肥料不足は、短期的には品質向上（甘い）となる場合もあります。しかし、長期的には糖度低下や着色不良、隔年結果が増幅してきます。栽培経費の節減のため肥料代の節約も考えなければなりません。家畜堆肥の併用や標準施肥量の3割程度が削減の許容量と考えます（図3参照）。



▲ 図3 窒素施用量と果実品質（温州みかん）

は、経費節減のため肥料を減らせるの？と考えがちですが、果実が成っていないければ翌春にはべた花が予想され着花過多による樹勢低下が心配されますので基準どおりの施肥をお勧めします。